

NewsLetter



自治医科大学地域医療オープン・ラボ

Vol.153,Dec,2019

布施克也先生(新潟7期)第6回昭和上條医療賞受賞 (速報)

慶應義塾大学 医学部 ブリヂストン臓器再生医学寄附講座 小林英司(新潟5期)

『布施 克也先生は、新潟県魚沼地域の県立病院の院長として、地域包括ケアの実現のため、地域医療を担う専門職種間の連携強化、地域住民の啓発などを目的に、2011年度から「地域医療魚沼学校」を開設され、活動を主導されております。「学生・研修医が学ぶ」「多職種連携教育及び協働実践の場」「住民が学ぶ」を三本柱としたカリキュラムで、2018年までに延べ28000人が「地域医療学校」に学び、その成果の一つとして、2013年以降、医療費が全国の二次医療圏中最低を記録し続けています。このような幅広く継続的な地域保健医療への貢献は、昭和上條医療賞地域保健医療貢献部門の受賞にふさわしいと判断させていただきました。』

師走も中頃の12月16日、リニューアルされた昭和大学上條記念館で選考委員長の木内 祐二先生より選考理由が述べられた。そして、公益財団法人昭和大学医学部・医療振興財団の理事長 山本俊憲先生から賞状、メダルと副賞が手渡された(写真)。



昭和上條医療賞は、地域保健医療及び医学・医療分野の教育において創造的かつ先駆的諸活動を行い、大きな成果を挙げた実践者又は実践グループを顕彰することを目的として 2013 年から始まった公益財団法人昭和大学医学・医療振興財団の顕彰であり、受賞分野として(1)地域保健医療貢献部門（地域保健医療の質向上および国民の健康増進に貢献した幅広い地域の公益性の高い活動）と（2）医療人育成部門（医療人育成において優れた成果を挙げた独創的・革新的な活動）がある。布施先生は、(1)地域保健医療貢献部門に選出された¹⁾。この部門は、①地域住民に対する診療・治療・ケアなどの様々な領域で、先進的で効果的な医療を実践、あるいは推進し、地域医療に貢献した。②疾病予防などの公衆衛生、生活支援などに積極的に従事して優れた功績を挙げ、地域住民の保健衛生の向上に著しく貢献した。③地域において多職種連携のチーム医療を積極的に実践し、あるいは行政、保健、福祉、介護、教育、文化などのスタッフと連携・協力し、地域全体で包括的な医療システムなどの住民サービスを提供することで、質の高い生活を送れるよう活動した。であるが、布施先生が展開してきた「地域医療魚沼学校」²⁾ はまさにこのいずれにもあたる見事な受賞である。

布施先生の活動は、地元医師会とともに地道に進めてきたものである。そして新潟大学関係者、特に今回、推薦をしてくださった高橋榮明先生（新潟医療福祉推進会議）などの理解を得て、他大学の地域医療振興に対する顕彰に選ばれたことは、地域医療の未来像を示したものであろう³⁾。

1. 顕彰実績（昭和上條医療賞） | 公益財団法人 昭和大学 …

www.showa-mf.jp/iryousyou/index.html

2. 地域医療魚沼学校

www.uonuma-school.jp

3. 新潟で地域医療の「その先」が見えてきた - 医療介 …

<https://www.cbnews.jp/news/entry/20170911100011>